

Health Professional Meeting (H20) 2019 開催の件

1. 日 時：令和元年 6 月 13 日（木）午後、14 日（金）終日
2. 場 所：ヒルトン東京お台場
3. 主 催：日本医師会、世界医師会
4. 出 席：横倉会長、中川、今村、松原各副会長、尾崎、安里両理事、小玉、石川、道永、羽鳥、釜菴、松本、城守、平川、長島、江澤各常任理事、角田監事、畔柳、星両参与、澤日医総研研究部長、日医総研研究員他
5. 参 加：37 カ国約 220 名（海外約 50 名、日本約 170 名）
6. 内 容：

標記会合が日本医師会と世界医師会の共催により、開会式典に秋篠宮皇嗣妃殿下のご臨席を仰ぎ、6 月 13 日、14 日の両日、37 カ国約 220 名の参加者を得て開催された。本会合は、昨年 4 月に横倉会長が世界医師会（WMA）会長として、WHO のテドロス事務局長との間でユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の推進と緊急災害対策の強化をテーマに交わした覚書の実践の場という位置づけで、特に、UHC の推進における医師と医師会の役割に焦点を当てたものであった。

横倉会長は冒頭の挨拶で、国境を超えた医師の結束がますます重要となっているとし、新たな元号「令和」が示す“Beautiful harmony”の下に UHC の推進がいつそう進むことを期待した。来賓挨拶では、安倍晋三総理大臣がビデオメッセージで、「UHC の達成には政治的なリーダーシップだけでなく、医師をはじめとする医療専門職やその専門組織の貢献が必要不可欠である。本会合が、日本が G20 議長国を務める本年に開催されることを歓迎する」とした。また、13 日のレセプションには麻生太郎財務大臣が参加し、「G20 財務大臣・中央銀行総裁会議の議長を務め、途上国における UHC ファイナンス強化の重要性について共通理解を得たことが大きな成果であった。また、こうした課題に対処するために、6 月下旬に「G20 財務大臣・保健大臣合同セッション」を開催する」とした。14 日の夕食会には根本匠厚生労働大臣が出席し、「日本の経験や世界の様々な国の経験が本会合で共有されることにより、世界の UHC 達成に向けた取り組みがより一層加速することを期待する」とした。本会合には、世界各国・地域の医師会のリーダーに加え、WHO 本部、地域事務局を始めとする国際機関、NGO、アカデミア、患者団体が参加し、シンポジウム形式で講演と議論が行われた。基調講演では、サー・マイケル・マーモット WMA 元会長でユニバーシティ・カレッジ・ロンドン疫学教授が、医療への普遍的アクセスにおける健康の社会的決定要因についての行動では、「原因の原因」に目を向けるべきとした。WHO の山本尚子事務局長補は、UHC 実現に向けた様々な側面における医師会の果たすべき役割について述べた。その後、セッション 1「UHC を達成する方法についての見解」、セッション 2「健康の安全保障と UHC」、セッション 3「UHC とプライマリ・ヘルスケアの政治的側面－医療専門職の役割」、セッション 4「UHC に

対する責任の共有と個人の義務」において、それぞれ講演と議論が行われた。横倉会長は、「日本における UHC の導入と初期における医師及び医師会の対応の歴史」と題して講演を行った。

14 日には、本会合の成果として「UHC に関する東京宣言」が採択された。そこでは、世界中の医師と医師会に UHC の擁護と実現に重要な役割を果たすよう奨励すると共に、G20 財務大臣会合が途上国における UHC の重要性と財源の確保に関する共通理解を示したことを歓迎し、G20 サミットに対して、ヘルスケアシステムに対する改善された持続可能な投資への道を期待することを述べている。本東京宣言は、G20 大阪サミットに提言することになっている。

Health Professional Meeting (H20) 2019

Road to Universal Health Coverage

プログラム

第1日目：6月13日（木）

進行：道永麻里 日本医師会常任理事、世界医師会理事会副議長

- 13:00-13:15 **歓迎の辞**
横倉義武 日本医師会長、世界医師会前会長
Leonid Eidelman 世界医師会長、イスラエル医師会前会長
- 13:15-13:25 **来賓祝辞**
秋篠宮皇嗣妃殿下 お言葉
安倍晋三 内閣総理大臣（ビデオメッセージ）
根本 匠 厚生労働大臣（鈴木康裕医務技監代読）
- 13:25-14:45 **基調講演**
座長：Miguel Jorge／世界医師会次期会長、ブラジル医師会理事
- 13:25-13:55 基調講演1「健康格差と健康の社会的決定要因」
Sir Michael Marmot 世界医師会元会長
ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン疫学教授
- 13:55-14:25 基調講演2「UHC 実現のために～何が必要か～」
山本尚子 WHO 事務局長補、UHC/Healthier Population 担当
- 14:25-14:35 提言「プライマリ・ヘルスケアチームにおける役割と機能の定義」
Mukesh Haikerwal 世界医師会元理事会議長 オーストラリア医師会元会長
- 14:35-15:00 休憩
- 15:00-16:30 **セッション1：UHC を達成する方法についての見解**
座長：Osahon Enabulele
世界医師会社会医学委員会委員長、ナイジェリア医師会元会長
- 15:00-15:15 講演1「UHC の達成についての患者の見解」
Ellos Ellard Lodzeni 国際患者団体連合理事/マラウイ
- 15:15-15:30 講演2「保健人材：UHC の達成に向けた戦略的投資」
Giorgio Cometto WHO 保健人材担当調整官
- 15:30-15:45 講演3「UHC 達成のための医師の役割とは何か？ーグローバルファンドと世
- 15:45-16:00 界の教訓からー」 國井 修 世界エイズ・結核・マラリア対策基金
- 16:00-16:15 (グローバルファンド) 戦略・投資・効果局長
- 講演4「UHC：医師会の見解」 Jacqueline Kitulu ケニア医師会長
- 講演5「インドにおけるUHC」 Ravindra Wankhedkar インド医師会前会長
- コメント**
- 16:15-16:20 Oscar D. Tinio フィリピン医師会元会長
- 16:20-16:25 Chukwuma Oraegbunam 世界医師会 Junior Doctors Network 代表/ナイジェリア
- 16:25-16:30 Batool Wahdani 国際医学生連盟会長/ヨルダン
- 16:30-17:30 **パネルディスカッション**
- 17:30 閉会
- 19:00-21:00 レセプション

第2日目：6月14日（金）

進行：道永麻里 日本医師会常任理事、世界医師会理事会副議長

08:45-09:00 1日目の要約

09:00-10:30 **セッション2：健康の安全保障とUHC**

座長：神馬征峰／東京大学大学院医学系研究科国際地域保健学教室教授

09:00-09:15 講演1 戸田隆夫独立行政法人 国際協力機構（JICA）上級審議役

09:15-09:30 講演2 「赤十字国際委員会（ICRC）とUHC」

David Maizlish 赤十字国際委員会（ICRC）駐日代表代理

09:30-09:45 講演3 「一人の患者も取り残さないUHCの実現にむけて」

Clara van Gulik 国境なき医師団（MSF）日本、医療アドバイザー

09:45-10:00 講演4 「医療制度の回復力：タイにおけるUHCと健康の保障のための基礎」

Walaiporn Patcharanarumol タイ保健省国際保健政策プログラム部長

10:00-10:15 討 論

10:15-10:40 休 憩

10:40-12:30 **セッション3：UHCとプライマリ・ヘルスケアの政治的側面－医療専門職の役割**

座長：中谷比呂樹 WHO 執行理事、慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート特任教授

10:40-10:55 講演1 「医療専門職が導く成功への道筋」

Walid Ammar レバノン保健省事務局長

10:55-11:10 講演2 「UHCを超えて：保健システムの将来」

渋谷健司 キングス・カレッジ・ロンドン
ポピュレーション・ヘルス研究所所長

11:10-11:25 講演3 「UHC実現の政治的意思、厳しい決断、医師の指導力と義務－AMAの経験から」

David Barbe アメリカ医師会元会長

11:25-11:40 講演4 「プライマリ・ヘルスケアはそれ自体が目的か、それとも包括的なヘルスケア包括システムへ向けた一歩か、プライマリケア・チームは誰が主導すべきか？」

Otmar Kloiber 世界医師会事務総長

11:40-11:55 講演5 「UHCを実現させる上で重要なプライマリ・ヘルスケア」

柏倉美保子 ビル&メリнда・ゲイツ財団日本代表

11:55-12:10 講演6 「社会的共通資本と医療」

占部まり 宇沢国際学館代表

12:10-12:15 コメント

Chaand Nagpaul イギリス医師会議長

12:15-12:30 討 論

12:30-13:40 昼 食

13:40-15:40 セッション4「UHCに対する責任の共有と個人の義務」
座長：葛西 健 WHO 西太平洋地域事務局長
講演：「日本における UHC の導入と初期における医師及び医師会の対応の歴史」
横倉義武 日本医師会長、世界医師会前会長

パネルディスカッション

横倉義武：日本医師会長、世界医師会前会長
Frank Ulrich Montgomery：世界医師会理事会議長、ドイツ医師会前会長
厚生労働省：鈴木康裕医務技監
戸田隆夫：独立行政法人 国際協力機構（JICA）上級審議役
平林国彦：ユニセフ東アジア・太平洋地域事務所、保健・HIV/AIDS 部長、地域
保健事業アドバイザー
Pem Namgyal：WHO 南東アジア地域事務局事業統括部長
Tenin Gakuruh：WHO アフリカ地域事務局、セーシェル事務所代表
Riu Yue：WHO 西太平洋地域事務局ヘルスシステム部 UHC 及び SDGs ガバナンス
コーディネーター

15:40-16:00 休憩

16:00-16:30 「UHCに関する東京宣言」採択

座長：Frank Ulrich Montgomery 世界医師会理事会議長、ドイツ医師会前会長
主な点

- UHC とプライマリ・ヘルスケアの理解と関与の強化
- UHC の達成に向けた長期国家政策の策定
- 医師及び医師会の役割の明確化、政府と社会のあらゆる側面に向けた提言の策定

16:30 閉会の辞

横倉義武 日本医師会長、世界医師会前会長
Leonid Eidelman 世界医師会長、イスラエル医師会前会長

19:00-21:00 夕食会

Health Professional Meeting (H20) 2019

Road to Universal Health Coverage

June 13th & 14th, 2019

Hilton Tokyo Odaiba, Tokyo

UHCに関する東京宣言

Health Professional Meeting (H20) 2019において、世界医師会（WMA）と日本医師会（JMA）は、世界保健機関（WHO）、各国政府、政府間および国連機関、その他の組織によるユニバーサルヘルスカバレッジ（UHC）を提供するヘルスケア制度の開発を推進する取り組みを歓迎する。

私たちは、UHCを「すべての人々および地域社会が、その必要とする効果的で十分な質の、健康増進、予防、治療、リハビリおよび緩和に関するサービスを、経済的な困難を伴うことなく確実に享受できること」（WHOによる定義）を意味すると理解する。

UHCは、ヘルスシステム自体の不平等を克服するためのツールである。

UHCは、人々のためのものであると同時に人々によるものでもある。

多くの国ではヘルスケアのための人的資源が不足している。私たちは、医療専門家の教育と定着化への投資を行う責任者すべてに対して、UHCを実現するよう求める。

これには、質の高い教育、継続的専門能力開発の機会、そして地域社会と患者に医療を提供する人々にとって、最も重要で安全、尊厳重視で魅力的な労働条件や生活状況が含まれる。

WMAは、世界のすべての地域における医師と医師会に対して、UHCの擁護と実現に重要な役割を果たすよう奨励する。

医療側からすれば、包括的ヘルスシステムの中核部分として質の高いプライマリケアの開発への強い関与を含め、UHCの概念を受け入れることに躊躇があってはならない。

私たちは、G20の財務大臣¹がUHCの発展を「開発途上国における、人的資本の開発、持続可能かつ包括的成長と開発、ならびにパンデミックや抗菌薬耐性などの健康上の緊急事態の予防、発見と対応」に貢献するものとして最近注目していることを歓迎する。

私たちはG20サミットに対して、以上のことがG20諸国のみならず、理由を問わずヘルスケアシステムに未だ十分な投資ができない他の諸国においてこそヘルスケアシステムに対する改善された持続可能な投資への道を鼓舞するという期待を表明する。

¹ https://www.mof.go.jp/english/international_policy/convention/g20/communique.htm
https://www.mof.go.jp/english/international_policy/convention/g20/annex8_1.pdf